



平成25年9月

<第9号>

柏市立柏病院

【住所】 柏市布施 1-3

【電話】 04-7134-2000

猛暑が過ぎて

9月になり暑さは残るものの、朝夕の爽やかさに一息つけます。

7月、8月と続いた猛暑のあとですので、皆さんも体力の回復を図っていただきたいと思います。

当院の古い空調機器も夏の暑さに随分無理をしたようで、随所に支障が出てきました。当院の建て替え方針が今年3月柏市で決定しましたが、今年の冬や来年の夏を考えると、大がかりな空調工事が至急必要です。

9月、10月に工事を予定しますので、ご理解のほどお願いいたします。



病院長 野坂 俊壽



連載インタビュー 第5回

今回は、整形外科科長 **森永 達夫** 医師です。

Q. 先生のご出身は？私達は青森のイメージが強いんですが…。／青森は嫁さんの実家で、僕が生まれたのは大阪です。

Q. 大阪生まれなのに、訛りがありませんね。／小学校5年までは大阪にいて、それから東京の目黒に引っ越し、高校まで住んでいました。シティーボーイだよ。 (笑) そこから葛飾へ移り、千葉にやって来ました。

Q. 子供のころはどんな子でしたか？／ドラマチックな話を期待しているだろうけど、ごく普通の子。小さい頃は病気をしていた、1歳まで生きられないと言われてたけど、東京へ来る頃には元気でしたね。

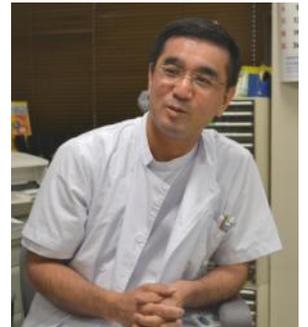


Q. 整形外科の医師になろうと思ったきっかけは？／子供の頃から医者になろうと思っていました。周りに何人もいたから自然と。整形外科の医師になったのも、大学で弓道部に入り、今の教授も弓道をやっていた、そのままあまり考えずに整形外科の道に。今の制度と違って自由に選択出来なかったのもあるけど、そこは運命的な出会いだったのかもしれない。

Q. 学生時代の思い出は？／弓道は主将もやっていたので、それなりに頑張っていました。ただ礼儀正しかったかという、そうではなかったかな。あと自動車競技で林

道を走り回っていました。(笑)

Q. 病院のスキー旅行を企画され、スキーのイメージが強いんですが…。／スキーを始めたのは医師になってからだね。よく行くようになったのは結婚してからで、女房はスキーが好きだったから、冬は毎週のように行きました。50歳過ぎてからスキー検定1級を取りました。



Q. 開院時の話を聞かせてください。／開院式を知っているのは僕しかいないんじゃないかな。椅子1つない、何も無い状態からのスタートでした。当時、山田先生(初代院長)や宮原先生(前院長)、偉い先生ばかりだったから、まだその当時若かった僕は最初の伝票作りからシステム構築までいろいろと奔走しました。

Q. 開院からの20年は長かったですか？／あっという間でしたね。病院がマンネリ化せず、人も変わっているし、システムも変わっているし、常に新しいことを取り入れているので、なかなか楽しいんじゃないかな。病院の建て替えも計画されているので、将来を楽しみにしています。

Q. 当院の防災委員長として、秋の防災訓練についてお聞かせください。／先の震災で、災害は本当に起きることを実感しました。災害時のマニュアルは、柏市、医師会ともにあるんですが、訓練は一度もやっておらず、その辺の擦りあわせが出来ていませんでした。そこで柏市と柏市医師会合同防災訓練の第1回目を市立病院である当院でということになりました。

Q. 患者さんへ一言／いつも大変混み合ってます、お待たせしております。良い医療を提供しようと努めておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

森永 達夫 (もりなが たつお)

整形外科科長

プロフィール

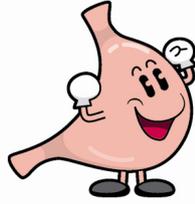
千葉大学医学部卒業。平成5年当院非常勤勤務の後、平成7年4月当院整形外科に着任。平成18年整形外科科長に就任。優しい笑顔で診療にあたり、先生を慕う患者さんが多い。診察日は月・水・金曜日。(新患は水曜午前)



病気のお話シリーズ ⑤

『ピロリ菌と胃の病気』

<消化器内科>



今回は、マスコミでも取り上げられることの多くなった『ピロリ菌』のお話です。胃の病気の多くはピロリ菌が原因で起こります。そのことについて、消化器内科の医師にお話を聞きました。



今回ご協力いただいた
消化器内科の医師を御紹介します！

Q. ピロリ菌とは？

A. 胃の中に長年住み続けている細菌です。実は100年以上前から胃の中に細菌がいることは分かっていたのですが、強い酸の中で生き続けられるはずがないと無視されていました。ピロリ菌はいろいろなものを口に入れてしまう幼少時に、衛生環境、特に飲み水などから体内に入るようで、日本人では60歳以上で半分以上の人が、若い人では5人に1人が感染しています。

Q. ピロリ菌が引き起こす病気は？

A. 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎のほとんどはピロリ菌で起こります。胃がんもほとんどが慢性胃炎から起こりますので、やはりピロリ菌が原因です。ほかにも maltoma という胃のリンパ腫や血小板減少性紫斑病の中にもピロリ菌が原因となっているものがあります。

Q. どんな症状が出たら、検査をしたほうが良いですか。また具体的な検査方法は？

A. ピロリ菌がいるだけでは症状はありませんが、ピロリ菌により胃潰瘍、十二指腸潰瘍ができるとお腹が痛くなります。特にみぞおちあたりが食後や空腹時に痛くなります。慢性胃炎でも症状はありませんが、胃がんになるとお腹が痛くなったり、食べるとすぐお腹がいっぱいになり、吐いたり、体重が減ったり、貧血になったりします。胃カメラで胃粘膜を取って検査する他に、血液検査、呼気テスト(吐いた息の中に含まれるピロリ菌の代謝物を測定する)等があります。日本人は胃がんが多いので、1回は胃カメラをしてその際に一緒に検査していただくことが勧められます。

Q. 治療方法を教えてください。また予防する方法はありますか？

A. 3種類の薬を1週間飲むと70~80%の人がピロリ菌を除菌できます。1つは酸を抑える薬、残りの2つは抗生物質ですが、喉の感染などでもよく使われるもので、当院では多くの方に処方してきましたが、大きな副作用は経験ありません。もし1週間飲んでも除菌できなければ、2次除菌といってほかの抗生物質で除菌します。こちら安全な薬です。除菌できたかを確かめるときは胃カメラでなくても、呼気テストで正確に判定ができます。予防する方法はありません。ただし今の日本の衛生環境で、大人が除菌後再感染する可能性は極めて低く、ほぼ無視できるレベルなので心配ありません。



最後に大切なことが2つあります！



まず、ピロリ菌を除菌すると、胃潰瘍、十二指腸潰瘍は単独ではほとんど起きなくなりますが、消炎鎮痛薬などで起こる胃潰瘍、十二指腸潰瘍は除菌しても完全には防げません。そしてピロリ菌は大きな胃がんの原因ではありますが、胃がんの発生母体はピロリ菌によって起こる慢性胃炎です。慢性胃炎を起こしたあとでピロリ菌を除菌しても胃がんの危険は減少しますが、決してゼロにはなりません。除菌はあくまでも胃がんの頻度を減らすだけで、除菌後に胃がんになる方もいます。定期的な胃の検診をやめてしまうと大変なことになるので、絶対に勘違いしないでください。

『ピロリ菌と胃の病気』に関連して・・・

内視鏡室 の紹介です。



内視鏡室ってどんなところ？

内視鏡室では、胃カメラ・大腸カメラ・気管支鏡の検査を行っています。平成 24 年度は上部内視鏡 3052 件、下部内視鏡 1042 件の検査を行いました。

胃カメラでは、主に胃粘膜の観察・組織検査・ピロリ菌検査・ポリープ切除・食道静脈瘤の治療・早期胃癌の治療（粘膜下層剥離術）等を行っています。また大腸カメラでは、主に健診で便潜血陽性に出た方の精密検査・ポリープ切除等を行っています。周辺の医院からのポリープ切除の依頼も多く手がけています。

柏市では、夜間・休日救命のための緊急内視鏡に対応できるよう、周辺3市（松戸・流山・柏）でネットワークを作っています。当院も月に数日担当しており、吐血や下血で来院する緊急患者の治療に当たっています。吐血の原因として多い病名は胃潰瘍・食道静脈瘤で、また下血の多くは憩室炎による出血です。ネットワークの担当日以外の日でも、当院では毎日 24 時間緊急内視鏡に対応できる体制を取っています。



感染対策はどのようにしているの？

使用したファイバーは、使用毎に機械による高水準消毒をしています。洗浄機は 2 台あり、定期的に消毒薬の検査をするなどメンテナンスに努めています。処置具はディスポーザブル（使い捨て）製品を使用しています。



内視鏡ファイバーの洗浄機



内視鏡技師ってどんなひと？

内視鏡技師とは、日本内視鏡学会が認定する資格です。主に、看護師や検査技師が3年以上内視鏡室に勤務し、所定の研修会に数回出席することで受験資格ができ、試験を受けることで取得できる資格です。

当院には内視鏡技師の資格を持ったスタッフ（看護師7人、検査技師4人の計11人）が交代で勤務しています。内視鏡技師は患者さんが検査を受ける際、苦痛が最小限になるように援助を行っています。また技師の資格が一番活かされる緊急時には、吐血・下血時の処置で専門知識を活かし、医師と協力して治療に当たっています。



内視鏡技師の認定証



胃カメラ検査の実際＜当院の検査の流れ＞

胃カメラを御希望の方は、内科外来を受診してから検査の予約をします。

胃カメラの場合は前日の 21 時までに夕飯は済ませて、当日は飲水だけで来院してください。

検査終了後の食事は、**観察だけで終わった方は1時間後、組織検査を行った方は2時間後の開始**になります。組織検査の結果は、1～2週間後に受診して聞いてください。

内視鏡室に入室し問診後、喉の麻酔を全員の方に行います。鎮静剤はご本人の希望制になっています。内視鏡室での鎮静剤は、気持ちや身体の緊張を和らげ、嘔吐反射の減少を図ります。全身麻酔とは異なりますが、ぼんやりさせる作用があります。**鎮静剤を使用されなかった方は、終了後すぐに帰宅**となります。**鎮静剤を使用された方は、1時間安静室で休んでいただいた後、帰宅**となります。鎮静剤には眠気・ふらつきなどを起こす作用があり、夕方まで続きますので、十分に注意してください。なお、翌朝まで自動車やバイク、自転車等の運転は出来ません。



鎮静剤を使用された方の安静室です。

病院ホームページの消化器内科の紹介の中で、『ピロリ菌と胃の病気』のお話をさらに詳しく掲載しています。是非そちらもご覧ください。

柏市立柏病院 ピロリ菌

検索

ご報告



前号で、夏休み看護体験の募集と満足度調査の実施のお知らせをさせていただきました。今号では、夏休み看護体験の実施風景と満足度調査の結果報告をさせていただきます。

夏休み看護体験を実施しました。

夏休み看護体験が行われました。「看護」にふれ看護の仕事を知ってもらうことを目的に「夏休み一日看護体験」を行っています。今年は、102名の皆さんの参加がありました。参加者の感想を一部紹介させていただきます。

自分でイメージしていた看護師さんの仕事と実際の仕事内容とでは違い、奥の深い仕事だと改めて感じる事ができ、今後の進路を考えるきっかけになった。

看護に関する沢山の事が知れたのでよかったです。看護師の方々が患者さんとふれあう姿はとてもかっこよかったです。

体験だけでなく、細かい仕事の事や、看護師になるための試験のこと、大学のことなど勉強になることが多かった。

ベッドメイキング、手洗いの方法、車いすの移動を学びました。

体験を通じて相手の気持ちをわかろうとすることが大切だと思いました。

大変そうな仕事だけどやりがいのある仕事だから看護師になりたい。

患者さんに「ありがとうね」ってお礼を言われ、すごくうれしかったです。



多数のご参加ありがとうございました。

満足度調査の結果報告

柏市立柏病院では、みなさまの満足度の向上を図るため、2年ごとに調査しており、今年は6月～7月にアンケートを実施いたしました。このアンケートは次の方々にご協力いただきました。現在、集計を行っております。まとまり次第院内掲示他にて、改めてご報告させていただきますので、よろしくお願い致します。ご協力ありがとうございました。

アンケート実施期間と対象者

- 外来**：6月17日～6月21日の期間に外来を受診された方々
- 入院**：6月10日～7月9日の期間に当院を退院された方々



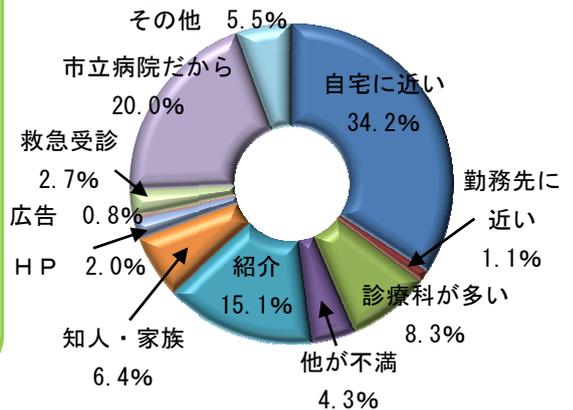
「第3回 満足度調査」

ご協力ありがとうございました

	該当者数	アンケート配布		アンケート回収	
		件数	率	件数	率
外来	2,101名	867件	41.3%	867件	100%
入院	289名	182件	63.0%	169件	92.9%

アンケート結果を少しお知らせします！

Q. 当院を選んだ理由は？（外来）



ボランティア活動日誌

患者を支える会

火曜日には病棟へ、月・木曜日には外来（化学療法室）へとピンクのエプロンをし、手にアロマオイルの入ったカゴとタオルを持って移動しているのが私たち、ボランティアグループ「患者を支える会」（NPO法人とうかつ・生と死を考える会所属）のメンバーです。

私たちの向き合っている方々は看護師さんが紹介してくださる患者さんで、手足のアロマトリートメントをしながらお話を伺っています。突然病に倒れた心の痛みが少しでも軽くなれば・・・という想いで5年が経過しました。これからもどうぞよろしくお願い致します。



当院の取り組み



NST（栄養サポートチーム）の活動

NSTとは

Nutritional Support Team(栄養サポートチーム)の略です。

栄養サポートとは患者さんの状態に合わせて、適切な栄養管理を実施する事です。

栄養サポートチームとは上記を実践する医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学・作業療法士、臨床検査技師の集まりです。

当院では2007年より活動を開始し、現在は医師2名、看護師6名、薬剤師2名、臨床検査技師1名、作業療法士1名、管理栄養士1名、事務員1名の計14名で栄養管理に取り組んでいます。



NSTのメンバー（勉強会終了後に撮影しました。）

NSTの目的

栄養状態が悪くなると合併症の発生リスクを高めたり、治療の効果を低下させ、入院期間を延長させます。このような状況を回避するために…

- 適切な栄養管理の提供
- 栄養障害の早期発見と栄養療法の早期開始
- 栄養障害による合併症の予防
- 良い状態での早期退院

を実現することです。

各職種の役割

看護師



日常の介護、精神面の支え、日常情報の収集、患者指導・教育

医師



NSTの総括
栄養療法の方針決定・指示

薬剤師



栄養関連製剤の情報管理
静脈栄養処方への参加
薬剤に関する患者へ指導・教育

臨床検査技師



検査データの集積及び分析

患者さん



作業・理学療法士



嚥下訓練
ポジショニングの確認

管理栄養士



栄養評価 栄養相談
栄養必要量・栄養摂取量の算出
薬剤に関する患者へ指導・教育

事務



データの整理
経済性についての検討

NSTの活動

★ 回診（週1回）

患者さんの状態や食べている様子を見させていただき、食形態は適正か、ポジショニングは正しいか、その他問題点はないかを見ています。

★ 症例検討（月2回）

それぞれの患者さんに適した栄養管理を提供できるように各部署の人達と話合っています。

★ 会議（月1回）

委員の知識の向上を目指し、勉強会や症例発表をしています。患者さんに食べ易い補助食品の検討を行っています。



病棟回診（8月9日）



NST主催の勉強会（7月26日）

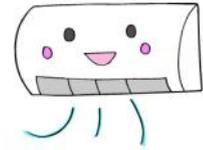
お知らせ



病棟の空調更新工事を行います。

病棟空調の老朽化に伴い、今年9月中旬から10月下旬の間、更新工事を行います。入院患者の皆様を安全に確保するため、病棟を無人化にして施工しますので、下記の日程で引越を行います。

- ① 3階病棟の引越し
平成25年9月12日(木)～14日(土)
 - ② 4階病棟の引越し
平成25年10月3日(木)～5日(土)
 - ③ 3・4階病棟への戻り引越し
平成25年10月24日(木)～26日(土)
- ※ ①②の引越後は旧病棟に立入できません。お見舞いの方は必ず総合受付でお部屋のご確認をお願いします。



工事期間中ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成25年度 柏市医師会共催による合同防災訓練を行います。

平成25年10月13日(日)、柏市医師会共催による合同防災訓練を実施します。訓練は午前診療が終わった昼頃に東京湾北部地震(柏市震度6)が発生し、病院建物への被害は少なかったが、停電(自家発電稼働)、ガス供給停止、電子カルテ使用不可という想定です。

大災害発生時、病院には近隣の被災者が一度に押しかけ混乱することが予想され、迅速かつ的確な判断による医療の提供が求められます。今回は、対策本部の指揮・命令系統、本部員の役割等を確認し、診療エリアではトリアージを実施し、迅速な本部対応及び被災者受け入れ訓練を行います。また、この訓練を通じて、柏市医師会や柏市との連携強化を図るものです。



インフルエンザワクチン接種についてのお知らせ

インフルエンザの流行期間は、通常12月から翌年3月位までです。インフルエンザワクチンの効果は、ワクチン接種後2週間～5カ月程度ですので、流行時にワクチンの効き目を高めておくためには、11月末までに接種を完了することをお勧めします。接種は体調の良い日を選ぶようにしましょう。当院のインフルエンザワクチン接種開始日は、10月1日を予定しています。



講座・イベント



世界糖尿病デー院内イベント開催のお知らせ

11月14日の世界糖尿病デーに向けて、テーマに沿ったポスター展示と講演会を行います。

テーマ

HbA1cは7.0%未満だモン

(第56回糖尿病学会年次学術大会・熊本宣言2013にちなんで、テーマはくまモン調です。)

ポスター展示

展示期間 平成25年10月11日から11月15日まで
展示場所 外来診察室前・薬局通路・4階病棟

講演会

日時 平成25年11月13日(水)14時～15時
講師 内分泌・代謝内科科長 稲澤 健志 医師
場所 はみんぐ会議室
参加費 無料

当院に通院中の糖尿病患者さんと御家族の方ならどなたでも参加可能です。参加希望の方は外来中央処置室で申し込みをお願いします。(予約優先となります。)



編集後記

アロマのボランティアさんが来ている日の化学療法室はとても良い香りに包まれ、スタッフもいい気分になれます。使用しているアロマオイルは市販品ではなく、特別に調合されたものです。同じ辛い治療ならば、「アロマがあるから、ここで治療してよかったなあ。」と提供していただければとてもうれしいです。

広報委員 木村 織絵(看護部)